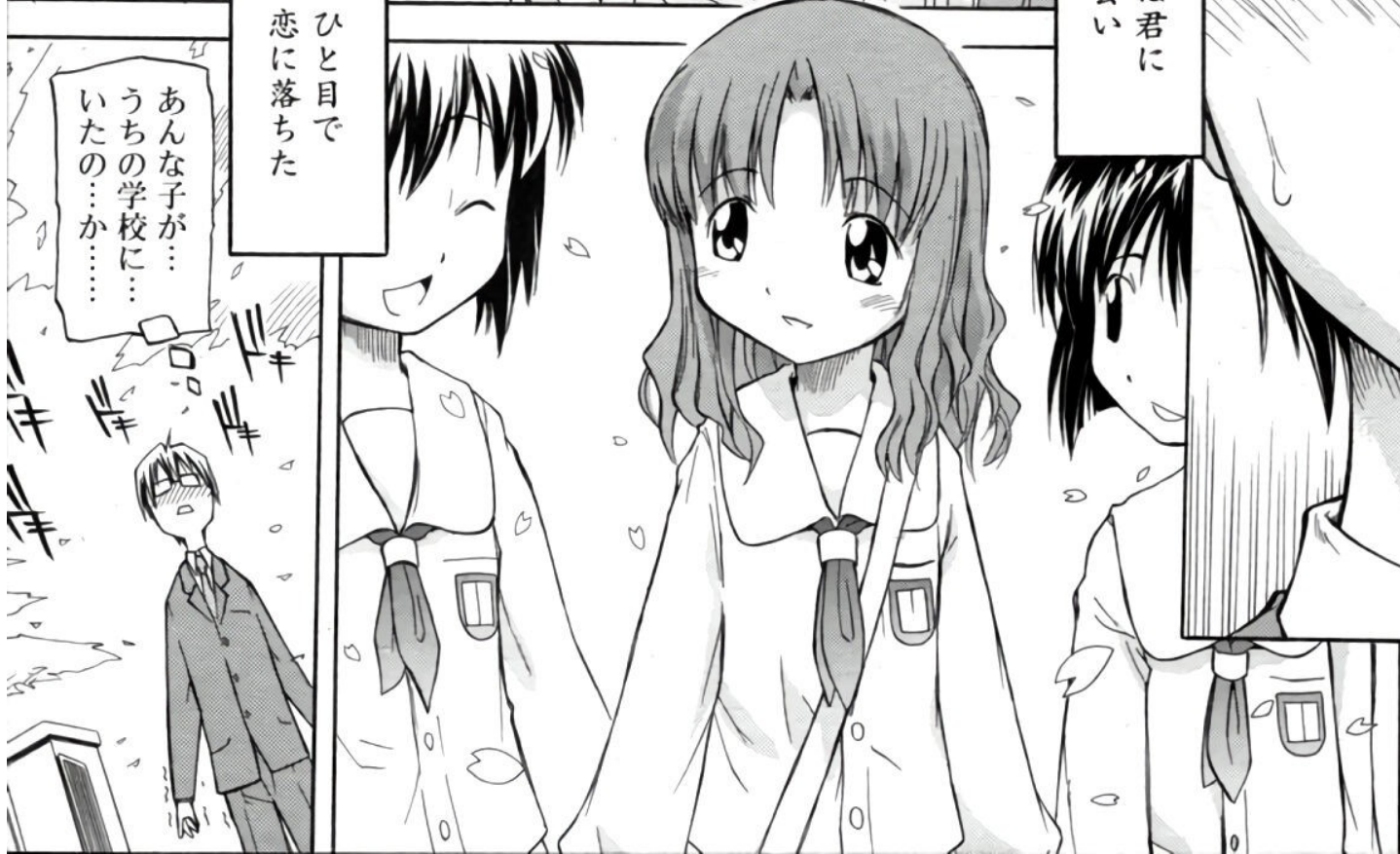
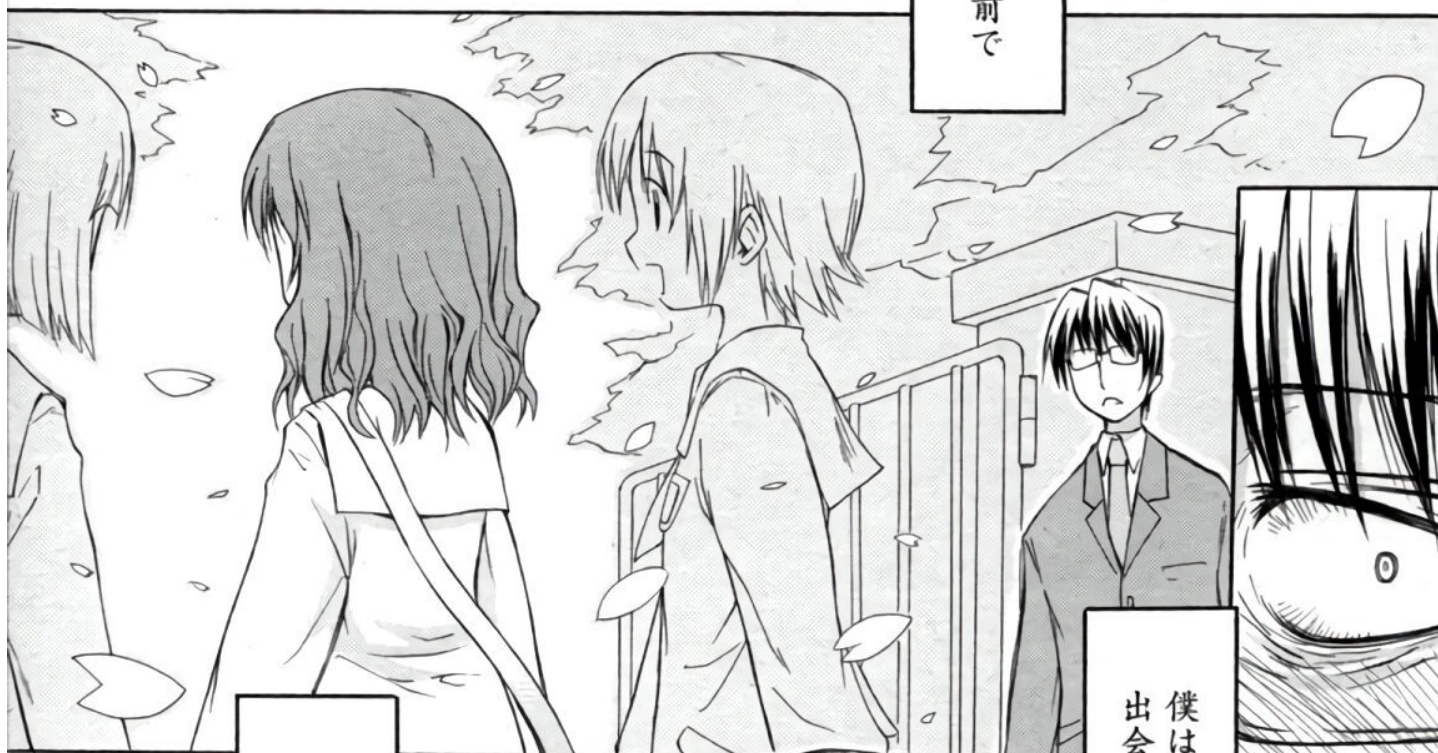
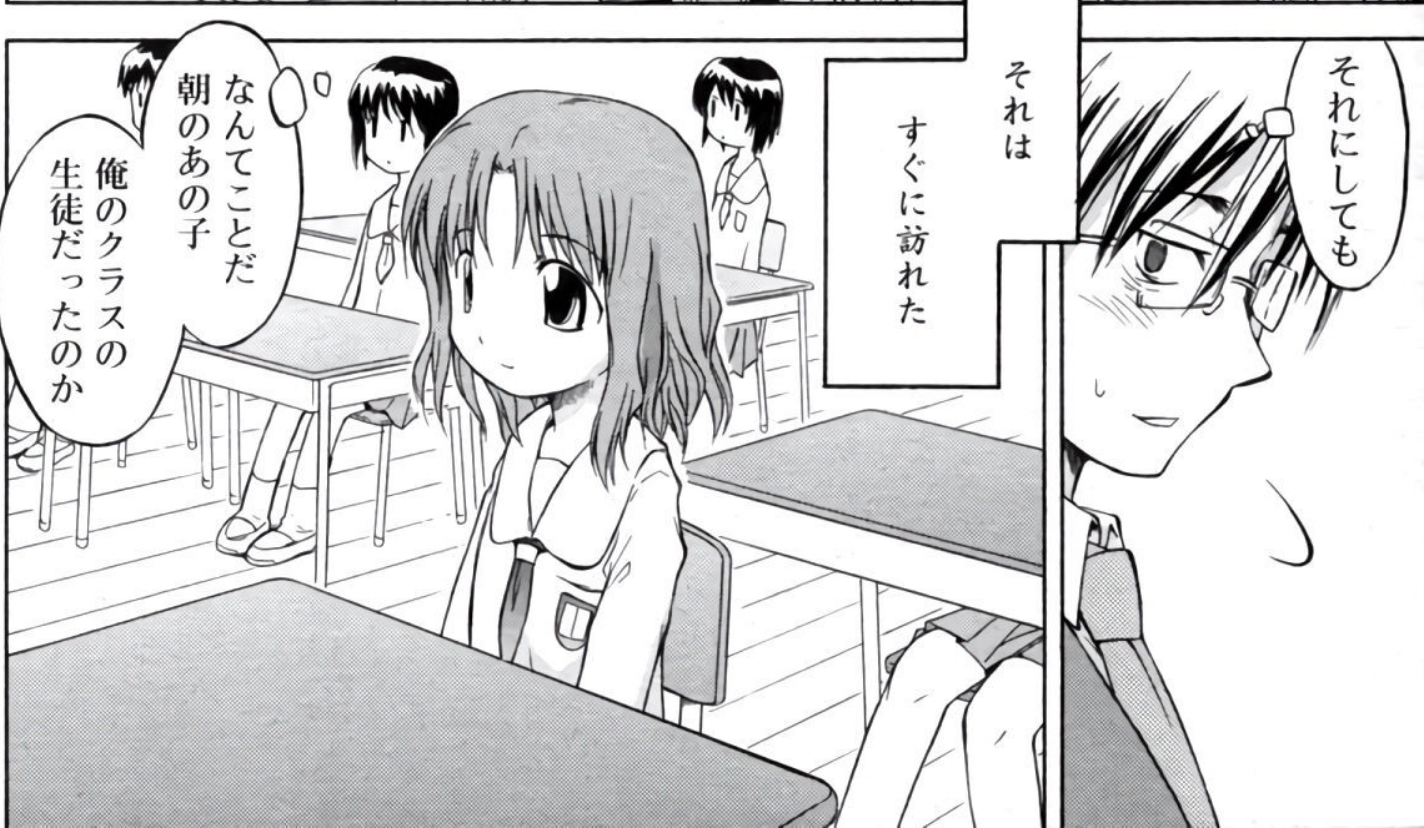




僕は君に
出会う

一方的ラブロマンス

山本雲居



弧原桃子です

3月にこっちに
引っ越してきました

モモコ
なんて愛らしい名前
美しい響き

よろしく
お願いします

そうか

春休みに転校して
きた子というのは
あの子だったのか……

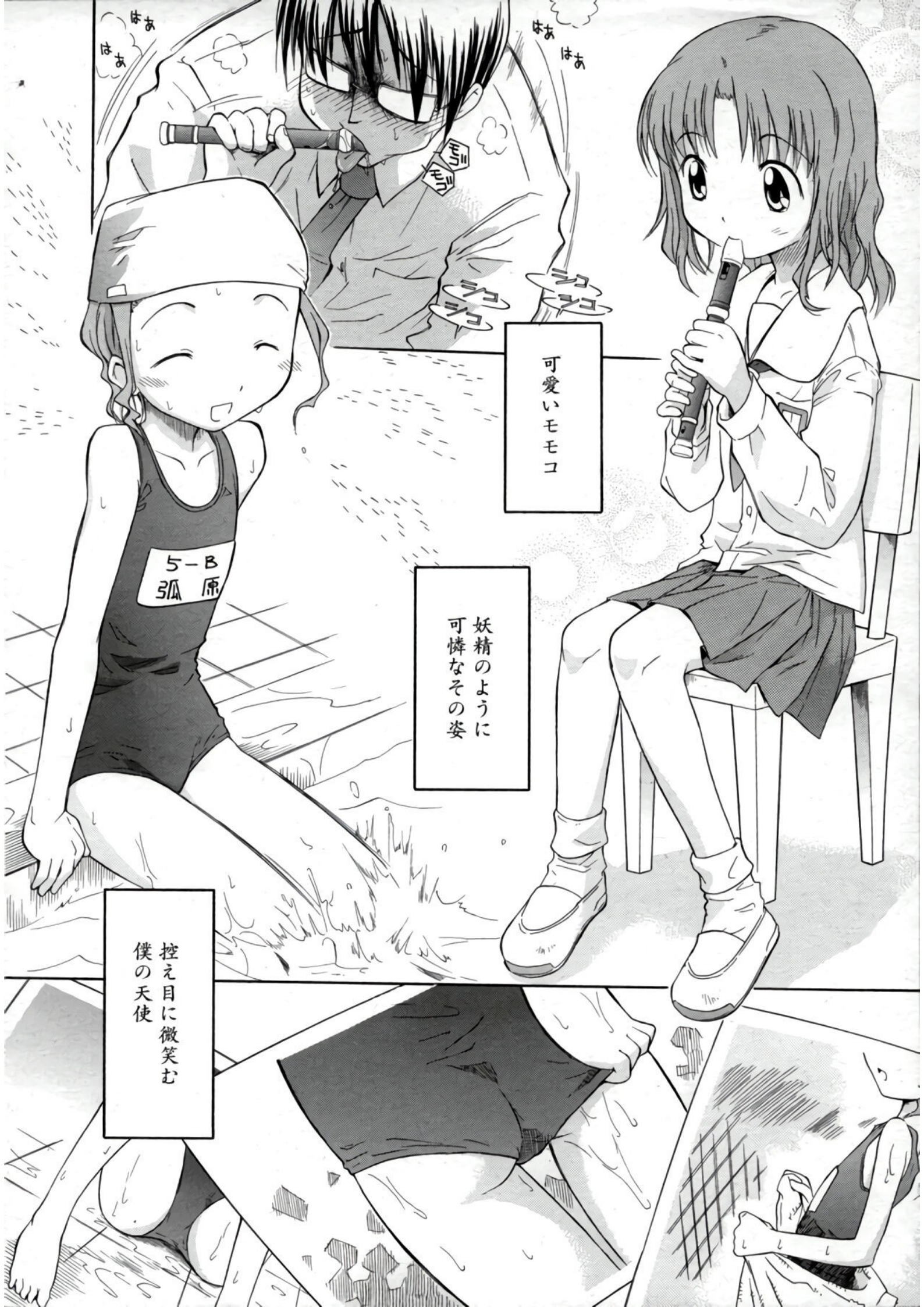
えっと……
趣味はピアノと
読書です

モモコちゃんか……
かわいいなあ……

そうか……
俺のクラスか……

この日から
僕たちの運命は
まわり始めた

これが運命と
いうやつなのか！



可愛いモモコ

妖精のように
可憐なその姿

控え目に微笑む
僕の天使



君と過ごす毎日が

僕にとって
至福の時間

ん〜

至上の宝物……

ん？ 弧原
何かな？

あのー先生

すは〜

すはー

すは

すは

引っ越し!?



驚愕 混乱
呆然 絶望

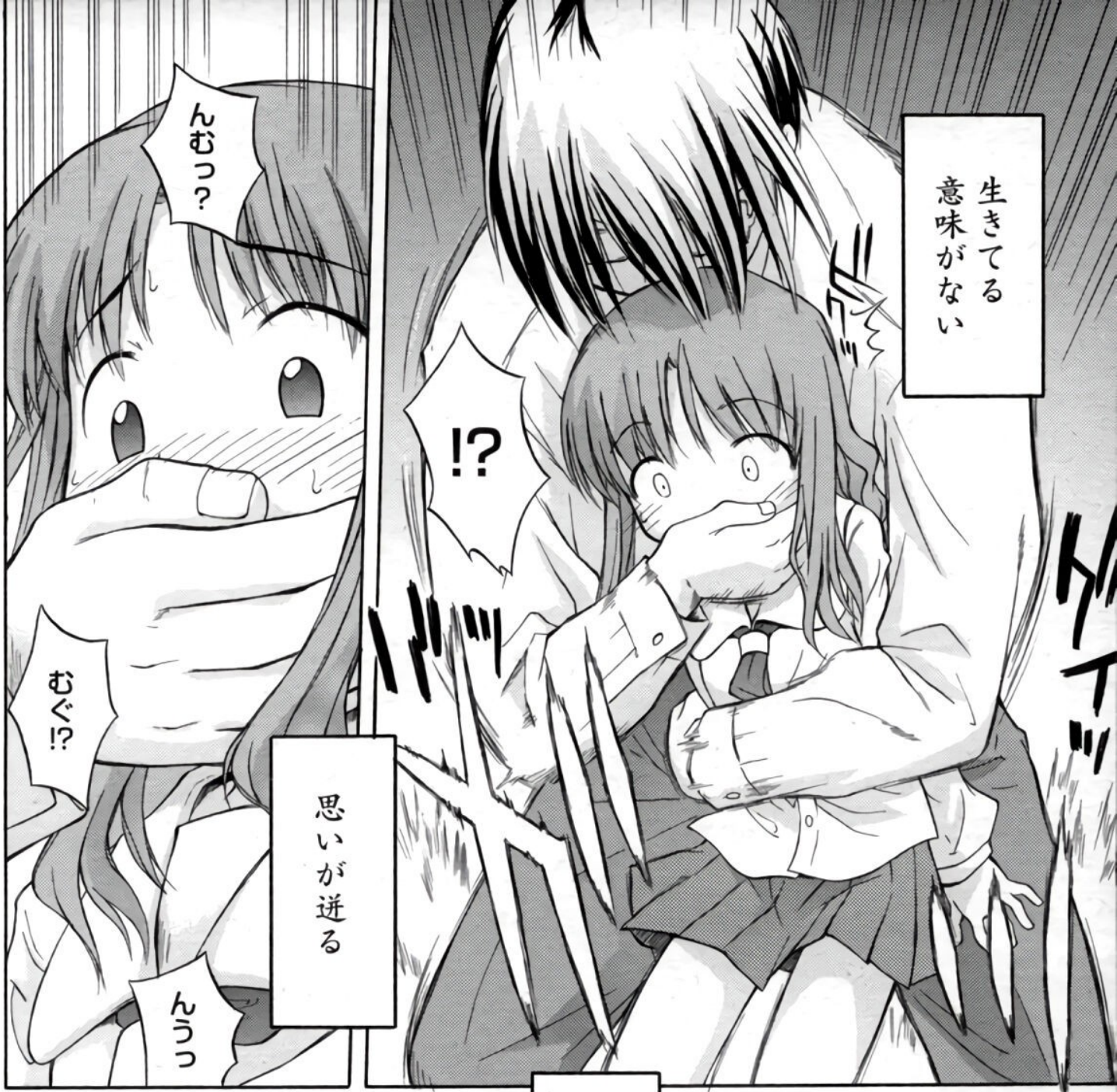
せ先生?
どうしたんですか!?

あああ
ごめん……

目にゴミが
入ったんだ
なんでもないよ
そうかいイギリスに……

激しい感情の波が
僕を翻弄する





生きてる
意味がない

!?

思いが逆る

んむっ?

むへっ!?

んうっ



幾度も夢に見た
禁断の肢体

んんっ!?

花のような芳香

んう!?

んんっ

んんー



艶やかな唇
桃色の花卉

あっ!?

僕は花に吸い
寄せられる虫だ

んおっ

んっっ?



桃子の蜜

桃子の味

んぐっ

んうー

荒い吐息が
僕の脳を痺れさす

んうっ!?

んふ〜

んっ

ミョウミ



んんッ

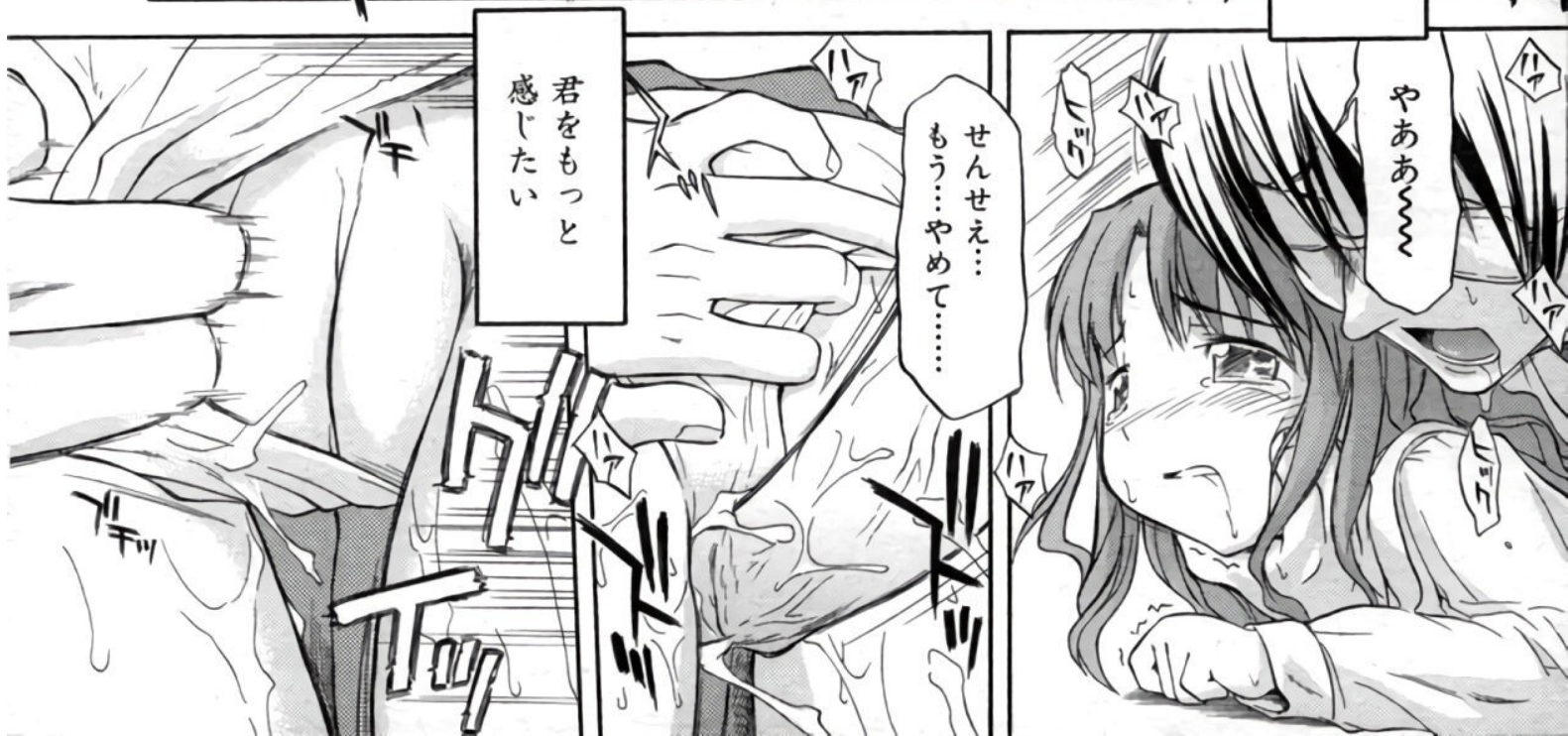
もつと僕を
感じさせてくれ

ハア
ああ…
なんて幸せなんだ



至福の絶頂の
なかで

幸せだあ~~~~



やああ~~~~

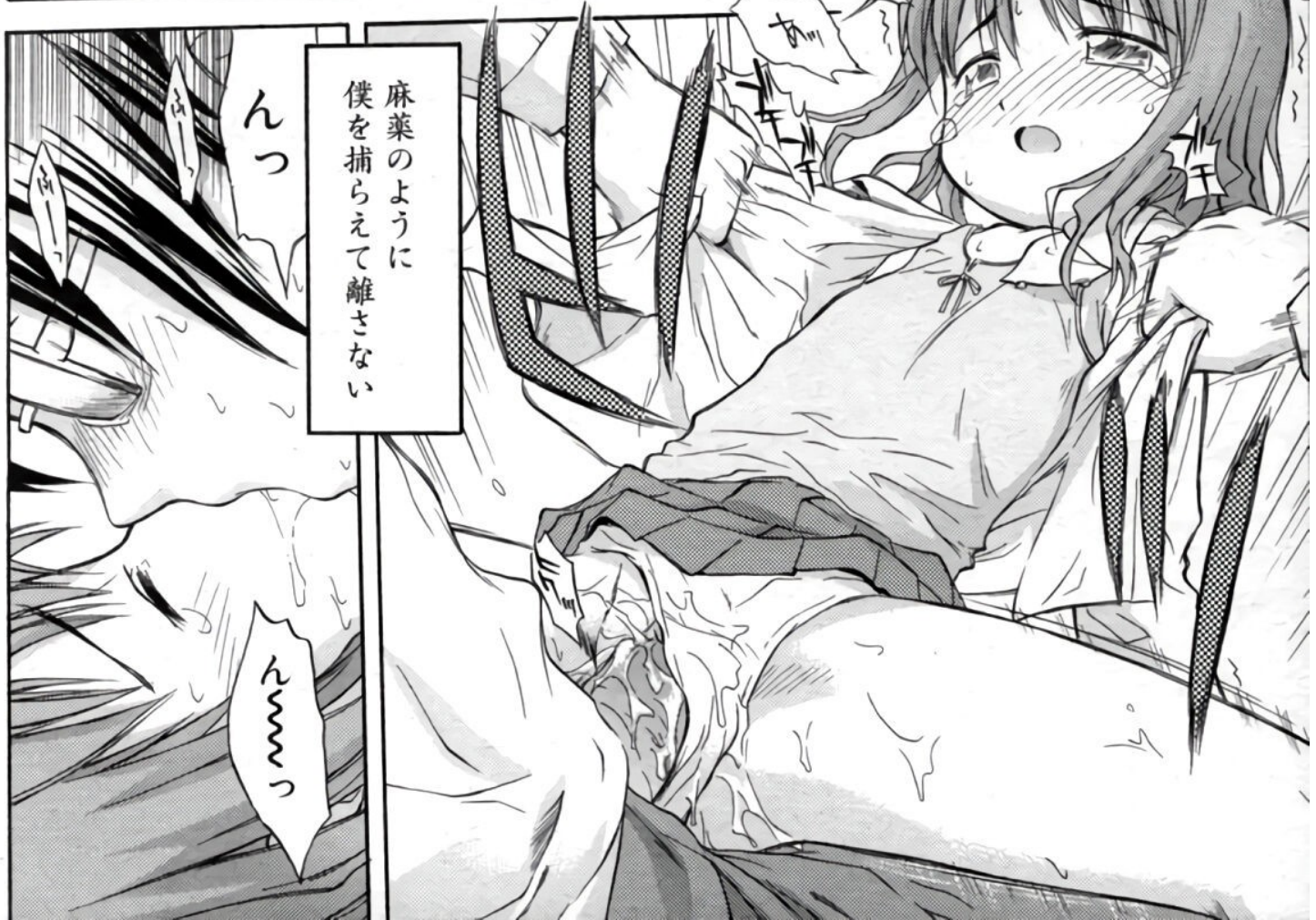
ハア
せんせえ…
もう…やめて……

ハア
君をもつと
感じたい





全身を伝播する
凄まじい快感



麻薬のように
僕を捕らえて離さない



とまらない

まっ まだ

まだ出し足りないよ モモたん

もっと

もっと
愛し合おう

先生の子供を
産んでくれ

けっ…

結婚してくれ!



好きだーっ

ハァ
っあ

いつまでも

こうして
一緒にいたい

やっ

モモたん——っ



桃子

モモコ



愛してる

好きだ

僕の

僕のモモコ

あっ

ふあ

モモコ—ッ

っあ

っあ
ああ
ああ…



駆け落ち
しよう

南の島へ

2人だけの
樂園へ

もうしばらく
我慢してね

モモたん

誰も僕たちを
引き離すことなんか
できない

こおわりっ

